龍聲

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊

発行編集所 〒959-1502
新潟県南蒲原郡田上町
曹洞宗　東龍寺
電 話 (0256) 57-3395
FAX (0256) 57-2174
ホームページ
http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/
E-mail
ryusei@ginzado.ne.jp

護摩堂山に抱かれて

東龍寺住職　渡邊宣昭

東龍寺全景(照光殿左上に護摩堂山登山道)11月15日

令和二年度は、思いもかけない新型コロナウイルスの感染拡大によって、様々な行持が中止や延期、あるいは規模の縮小を余儀なくされ、現在もその収束が見えない状況の中、試行錯誤の日々が続いております。

私も、例年ですと、布教教化の為に、五十日近く出かけているのですが、今年度はすべてが中止となり、寺に居る時間が増えました。丁度、東龍寺歴代住職の墓地改修工事を計画していましたので、じっくりと境内の環境整備に関心を向けることになりました。

その中で特に目についたのが墓地の中に生えた杉などの樹木でした。五十年程前は、定期的に木を伐採し燃料とする、全ての命との繋がりを大切にする仏教の教えとも通ずる、循環型の自然との共生生活が自ずと行われていましたが、化石燃料の普及により、木々は伸び放題となり、墓石を持ち上げたり枝が落ちて墓を傷めたりするので、伐採処分をしなければならない状況になってきたのです。私が住職になった昭和の終り頃は木を伐採する経費は、その木を売って相殺されたのですが、今は、処分までの経費をすべて負担しなければいけません。以前であれば、地元の製材所に持って行けば、製材して材料として使えた百年以上の杉の大木も、近在に製材所が無くなり、地産地消ができなくなっているのです。経費が掛かることと共に杉の命を生かすことができないことに心が痛みました。

もう一つ、気になっていたことがありました。それは、寺の飲み水が、水道と護摩堂山の伏流水を併用していることでした。私が六十年以上元気に生きているのですから、大丈夫とは思ったのですが、この機会に水質検査をしてもらうことにしました。来られた検査官に開口一番「水道とは、消毒した水のことを指すんですよ。」と言われたのはショックでしたが、検査結果は十二項目中「一般細菌」という一項目が、基準より若干多いだけで、それ以外は大腸菌も無く、問題ないとのことでした。ただ、お斎を準備したり、宿泊をすることもある照光殿は、水道使用に完全に切り替えました。庫裏の方は、水道水とは一味違うまろやかな美味しい伏流水を沸かして飲んでおります。お茶の味は格別ですし、仏様へお上げする水はこの伏流水です。

道元禅師は、『正法眼蔵』「山水経」の巻で「而今(にこん)の山水は、古佛の道現成(げんじょう)なり。」（今、現前にある自然こそが、仏法真理の表れである。）とお示しです。山の木々やそこを流れる水が、皆私たちと繋がった尊い命であると言われるのです。

以前、ある老師に「あなたは、護摩堂山の山懐に抱かれたお寺の住職として、自然環境が保たれるように、常に気を配ってくださいね。」と言われたことを思い起こします。私たち人間も自然の一部であることを忘れず、未来へ向けて共存して行こうと念じております。

合　掌

毎年山から池に産卵に来る、水芭蕉の葉にのったモリアオガエル 5月6日

東龍寺墓地墓石の再建について

本田上　田巻壽一

東龍寺の当家墓地は、正面が高さ約2m・幅4mの石垣の上に二十基のお墓が祀られていた。約三百五十年から百五十年前にかけて当家の初代から七代まで関係する人が三十四人が埋葬され、墓石も大分傷んできていた。テレビで墓じまいや墓守の問題が報じられ、どこの家でも同じような事が考えられるが、当家でも東龍寺墓石を整理し、本田上の古屋敷にある墓地に移設集約したい旨を、昨年の年始に東龍寺様に伺った時にお話をした。

四月に墓地について東龍寺方丈様より、当家墓地正面の石垣が前に押し出されてきている話があり、移設集約したい当家と安全の為という寺の意向とが合致し、改修工事をすることとなった。しかし、移設については役場の許可が得られなかったため、改修工事後、その一角に墓石を一基建て、祀ることとした。

改修前の田巻三郎兵衛家墓地 4月20日

五月半ばに、閉眼供養を執り行い、墓石の撤去・収骨作業を行った。九月中旬には墓地を再建する位置が決まってから当家の古い分家の田巻藤次右ェ門家の先祖の墓石も祀ってあったので、当家の隣に再建することとなり、十一月二十日に藤次右ェ門家と合同で開眼供養を執り行い、約一年近く要したが、無事に墓石を再建することができました。先代恒彦氏は県議会議員・田上村村長も歴任されました。

改修後、右端筆者、田巻藤次右衛門家夫妻と 11月20日

ご執筆頂いたように、この度、当家の墓地の大改修をし、下段三区画上段六区画の墓地となり、その二区画に三郎兵衛家、藤次右衛門家の先祖をお祀りしました。

今後とも、歴史ある田巻家先祖の墓地として大切にご供養頂きたく存じます。

住職より一言

田巻家十二代当主・壽一氏のお宅、田巻三郎兵衛家は、別称・本田巻家とも呼ばれ、田巻七郎兵衛家（別称・原田巻家）とともに越後千町歩地主の田巻両家として、江戸期から農地解放の行われた昭和二十年代まで、過ごしてこられ

「母、お墓、墓地の整備」

新潟市秋葉区　湯田洋志

令和元年八月に母は七十八歳で永眠致しました。ちょうどお盆の最中でありましたが、住職様には大変丁寧にお世話して頂き、つつがなく見送ることができました。

私どものお墓は、亡き祖父が大正十五年に建てたものでしたので、母の一周忌を機に新しくすることを考えましたが、お墓の横にある大きな杉の根が張り出し、土台が傾いていたため、ご相談させて頂きました。そうしたところ、伐採が必要な木は他に何本もあるとのことで、この機会に周囲の木々を含めて伐採して頂けることとなりました。

湯田家墓地脇の前年伐採した杉切り株の前で 12月27日

一周忌と開眼を終え、改めてお墓に参ると、辺り一帯はきれいに整備が進み、以前よりも明るくすっきりとした様子になりました。大変ありがたく感じております。

住職より一言

一昨年、湯田さんからの依頼で墓を持ち上げる木の伐採を始めたことが、昨年そして、今後の墓地樹木管理の指針となりました。今後も自然との調和に心を配りながら、境内整備をしていきたいと思います。

曹洞宗心の電話
TEL 0120−508−740
携帯電話 03−3454−5410
こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

永平寺電話説法
TEL 0776−63−3399
役寮が、10日ごとに代わって、3〜5分の法話を行なっています。

卯辰会と東龍寺様の坐禅

卯辰会 会長　内山 荘一

卯辰会は昭和三十三年三月に三条実業高等学校を卒業した有志の集まりです。二〇二〇年で八十歳になり、卯辰会は四十回を迎えました。一時開催しない時期もありますが、男性四十二歳は大厄で、この年から二十四回までは弥彦神社で「厄払い」等のお祓いをお願いしました。六十一歳は厄年ですが、同時に還暦祝いでもあります。

これを過ぎますと「厄」はなく、古希、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿、百寿と御祝いだけです。私共も歳も重ね仏様に近づきますので、心の準備として二十五回から東龍寺様で「坐禅」をさせていただきました。坐禅をすることにより、なぜか心が洗われる清々しさが感じられ「これで一年は健康で過ごせる」と、貴重な経験をさせていただきました。

第38回卯辰会参禅後、本堂にて 平成30年4月20日

二〇二〇年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催出来ず、卯辰会の幕を閉じました。方丈様のご法話や温かいご指導に心から厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

住職より一言

令和二年（第四十回）は、コロナ禍で中止となりましたが、平成十七年～平成三十一年まで、四月の二十日前後に必ず参禅に二十名前後で来られました。私にとって元気な皆さんにお会いし共に坐るのは楽しみでした。

今後はお茶でも飲みにおいで頂ければと願います。

読経の日々

山形県鶴岡市　伊藤 鋭宏

あの日から十年近く経ちますが、永平寺での三泊四日の坐禅研修に参加しました。研修中に何人かの和尚さんの講話がありました。渡辺住職の講話も有り、今でも講話の内容から住職として檀家の方々を大事にしていると思われる内容でした。その後も永平寺での一般人でも参加出来る各種研修行事に積極的に参加してきました。

その時々に和尚様方が、色んな教えを説かれるわけですが、この教えを日々の生活に活かす事を標として生きて行こうと思いつつ帰路につきます。日々の生活に教えを生かす生活を送ることは容易なことではありません。

何か良い方法はないかと思いめぐらしている時に、毎日家内が朝仏壇にご飯を上げるときにお経を唱えようと思いました。

授戒会に参加した際に頂いた経本から般若心経等を一時間を目途に朝食前読経しております。毎日読経しているうちに、このお経は何を説いているのかを内容を理解しようと思うようになり、解説本を求めたり、図書館に行ったりの日々を過ごしております。

しかし、毎日一人での読経・写経・坐禅は大変ですので、気分転換に、菩提寺の本堂で読経したり、月一回は永平寺の法堂にも行きたくなり、片道四八〇キロ往復で九六〇キロのドライブを兼ねて行って来ます。家族からも「そこまで：」と言われますが、自分の気持ち、修行の一つの行いとして続けております。距離は関係ありません。「気持ち」ですと、家族には言っております。

第18回眼蔵会中日暁天中の筆者、令和元年7月5日

これからは、東龍寺様での坐禅と永平寺での授戒会、總持寺での授戒会を中心としての仏教徒として、東龍寺渡邊住職様を師として行くつもりでおります。

住職より一言

伊藤さんは、一昨年の眼蔵会に初参加され、熱心に行持を勤めておられるのが印象に残っておりました。

そして、昨年十一月初めに、「コロナ禍の中、永平寺に行けないので、今月の東龍寺月例坐禅会に日帰りで参加したい」との電話を頂きました。百五十キロくらいあるのですが、夜七時三十分～九時三十分の参禅をされ、お帰りになりました。

その道心に敬意を表し、益々のご精進を念じております。

【東龍寺年中行持】

六月　金毘羅大祭
八月一日　うらぼん会（盆参）
八月廿四日　水子地蔵尊並びに・観音様大祭
九月廿三日　秋のお彼岸会（お彼岸の中日）
十月十日　常斎米法要
十二月三十一日　除夜祭（除夜の鐘）大般若祈祷会
一月一日　寺年始（近隣の檀家）
一月二日　寺年始（遠方の檀家）
三月廿一日　春のお彼岸会（お彼岸の中日）

【令和二年度事業、行持報告】

一、月に一度、照光殿二階・開山堂・位牌堂の害獣防除を行っている。

一、四月一日～八月二七日、歴住墓地・その周辺墓地の修復工事を行った。

一、六月十一日～八月二十七日の内、十三日間、県の土木による河川工事を行った。

歴住墓地改修工事 4月7日

山田川改修工事 8月25日

一、六月二三日～八月九日に掛けて、墓地樹木の伐採を行った。

樹木伐採 8月7日

一、七月六日（月）午前十一時より、第三十一回金毘羅大祭を住職一人の読経で、講員二十九名が参加して行った。お斎、無し。

一、八月二四日（土）、第四二回水子地蔵・第二一回聖観世音菩薩大祭を行った。説教とお斎、無し。

一、第十九回眼蔵会、第十一回湯田上温泉祭り、第二十五回秋の講演会は、コロナ禍の中、来年に延期致しました。

【参禅の報告】

一、三月十二日、「メディアシップで坐禅に親しむ」の会員五名、坐禅二炷。お斎、無し。

一、九月十七日、田上小学校三年生親子、六十名（内子供三十名）。

一、十月十三日から、十一月二十三日にかけて、計六回、「観訪倶楽部」主催、ホテル小柳宿泊者、計七十六名。

一、十一月五日、新潟県退職者の会、西蒲原・南蒲原支部、女性部交流会。十七名。

一、十一月十二日、「メディアシップで坐禅に親しむ」の会員七名、坐禅二炷、お斎（今年度唯一）。

田上小3年生親子坐禅 9月17日

一、十一月二十日、二十一日に、田上町「たがみオータムフェスタ2020（道の駅たがみオープン記念イベント）」の坐禅会を行った。両日で三十名参加。

【令和二年度事業、行持案内】

一、四月二五日（日）～二七日（火）に、田上本山講では「大本山永平寺（授戒会焼香師随行）参拝と開創七百年大本山總持寺祖院・和倉温泉の旅」を定員二十名で行う予定。

一、十月十日（日）午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師に高田都耶子（華聖）先生（元薬師寺管主・故高田好胤老師のお嬢様）をお招きし、第二十五回秋の講演会を予定している。

【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市中央コミュニティーセンターを貸り、新しく小山貴大師を迎え僧侶十名（三名ずつ担当）による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。

【心の癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜（祭日は除く）の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者対象のに坐禅修行体験は、コロナ禍の中休止しています。

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【寄付のお礼】

一、三月十六日、一二五枚の衣財を四九名の方々から把針して頂いた二十五条衣が完成した。

一、五月一日、三条市渡辺喜彦氏より、手桶二十個、柄杓二十個を御寄付頂いた。

一、九月十七日、伊藤昇夫妻より、本堂正面の金蓮華一対をご寄付頂いた。

【お盆、棚経の日程】

一、今年は、お盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いします。

【お盆前】新潟・亀田・三条・巻・燕・白根

【十三日住職】新津・中山・赤渋・笠巻・三ツ屋・三枚潟・市ノ瀬・覚路津

【お盆中住職】川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田・新田・後藤・曽根・横場・加茂地区

【光明寺様】本田上・山崎・山田・湯古屋・羽生田・川船河

【少林寺様、若様】湯川・谷・中店・上野

尚、当日多少の変更が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

編集後記

寺報三十三号を発刊するに当たり、田巻壽一氏、内山荘一氏、伊藤鋭宏氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後も皆様のご寄稿をお待ちしております。

令和二年度は、諸行持が思うようにできず、三年度も先が読めない状況の中、第十九回眼蔵会は来年に延期することに致しました。また、諸行持の御斎ができない状況も続いています。

檀信徒各位と接する機会が少なくなっていますが、この寺報が、皆様との心の距離を少しでも近づける一助となればと願っております。

住職　合掌